

10月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

沖縄群島

1 水稻(2期作)

いもち病の防除対策

- 9月の調査の結果、本島北部の葉いもちの発生圃場率は48.7%、発病株率は9.6% (前年0.6%、例年1.8%)と例年より高かった。
- 窒素肥料の多用は本病の発生を助長するので、適切な肥培管理を行う。
- 稲体の耐病性は穂ばらみ期～出穂期に最も弱く、葉いもちから穂いもちへの拡大を防ぐため、この時期の防除に重点を置く。

2 さとうきび

メイチュウ類の防除対策

- メイチュウ類による芯枯れ茎率は0.3% (前年0.4%、平年0.4%)と平年並であった。
- ふ化した幼虫は、夏植された苗の葉裏および葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせる。
- 夏植の生育初期の加害による芯枯れ防止をねらい、食入初期の幼虫を対象にした重点防除を行う。
- 植付時および培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選定し施用する。

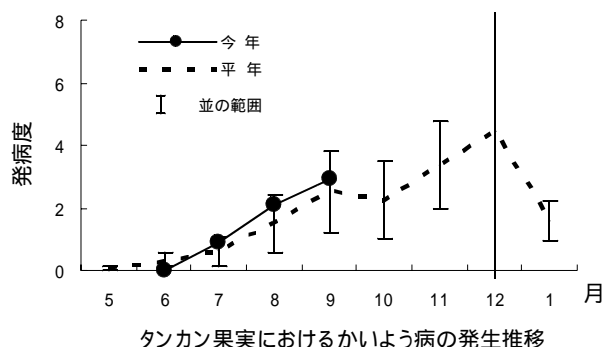
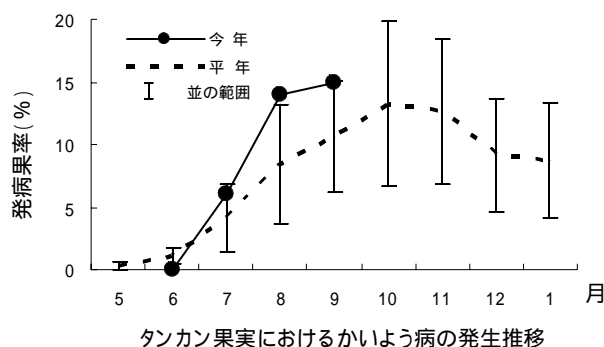
3 タンカン

(1) かいよう病

発生程度 : 並

予報の根拠

9月中・下旬の調査の結果、果実における発病果率は15.0% (前年14.4%、平年10.6%)と平年並で、発病度は2.9 (前年2.4、平年2.5)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

- 罹病した枝葉及び果実は、伝染源となるので除去する。
- ミカンハモグリガの穿孔から病原菌が侵入しやすいので、同虫の防除を徹底する。
- 台風の前後に薬剤防除を行う。

4 トマト(施設)

トマト黄化葉巻病の防除対策

- a 9月中旬、本島南部で本病の発生が確認された。
- b 発病株は感染源となるため、早急に抜き取る。抜き取った株は必ずビニール袋等に入れて密封処分する。
- c 本病の媒介虫であるタバココナジラミ(シルバーリーフコナジラミ)の防除を徹底する。
- d 平成19年度技術情報第2号(平成19年10月1日付け)参照。